

Oracle + .NET

3つの誓い



株式会社サンブリッジ テクノロジーズ
プロジェクトマネージャ
一志 達也 ICHISHI, Tatsuya
<http://www.sunbridg-tech.com/>

第 1 回

現在のアプリケーションから .NETの可能性を考察する

Technology Tools

- Visual Basic .NET
- Visual C# .NET
- SQL Server 2000
- Oracle 9i
- Access 2002
- ASP.NET
- Internet Information Services
- Other:

Level



Samples



ご挨拶



この連載ではオラクル製品について取り上げてゆきます。もちろんdotNETマガジンですから、オラクル製品のことだけを解説するのはいささか筋違いでしょう。そこで、Visual Basic .NET (以下VB.NET) とOracleデータベース (以下Oracle) を連携させたアプリケーション開発について解説してゆきます。

しかし、単にVB.NETとOracleを連携させるだけなら、他にもたくさん情報源があります。それでは面白くないので、この連載では次の3つの目標を定め、その目標を達成します。

*3つの目標

目標 1 .NETの本質を正しく理解する

.NETを使っているもしくは使おうとしている方、少なくとも.NET

に興味を持っている方々に対して、“.NETの本質を正しく理解する”という目標を掲げるのは釈迦に説法のような気がします。とはいうものの、そう長い時間は取らせませんから、私なりの解釈を語らせてもらうことにします。

目標 2 OracleとVB.NETの連携手法を理解する

2番目は当然ながら、VB.NETとOracleの連携を理解することです。“ただ単に接続してデータを操作しましょう”という連載にするつもりはありませんが、この点はずして書くことはできません。VB.NETとOracleを連携させるためのミドルウェアについては、別途比較検討する回を設ける予定ですが、主に利用するミドルウェアはODP.NET (Oracle Data Provider for .NET) と心に決めています。

Oracle+.NET

3つの誓い

目標 3 Webサービスを活用した アプリケーション開発を理解する

最後の目標ですが、この目標を掲げていることこそが、この連載の特色と考えています。これが何を意味するかは、ピンとくる方もいればそうでない方もいらっしゃるでしょう。現段階ではそれで構いません、というよりも、そうでなければ困ってしまいます。

いずれにしても、この部分は.NETの真骨頂でもあり、私の考える（というより世間でも騒がれている）次世代システムの根幹をなす部分となります。今回は概要を紹介しますが、詳しいことは連載の後半で、.NETとOracleの連携を理解していただいたうえで紹介することになります。

.NETが普及しないワケ

それでは、今回は1番目の目標とした「.NETの本質」を理解していただくとともに、3番目の目標である「Webサービスの概要」について理解していただこうと思います。そのためのきっかけとして、.NETの普及が進まない原因を考えてみることから始めましょう。

このように書くと、「.NETは十分普及しているのではないか」という方もいらっしゃるでしょう。とくに本誌を定期的に購読しているような方は、自分の周囲では十分普及していると思われるかもしれませんが、しかし、大々的な宣伝と各種メディアでの解説、そして発売からずいぶん時間が経っているにもかかわらず、.NETは普及しているとは言い難い状況にあるように思います。

Column .NETってなんだ？

.NETって、「ユビキタス」に負けず劣らず、その意味を連想しがたい名前ですよね。なんでそんな名前にしちゃったのだろう、といまさら考えるのはやめにして、.NETとは何かを考えてみましょう。

「.NETとは何か？」そんなことを考えるから、使う気がなくなるのです」と言ってしまうのはおしまいですから、少しだけこのテーマについて考えてみましょう。

冗談抜きで、実は.NETとは何かを完全に把握するのは、相当に困難なことです。

しかし、難しい理屈や、使わないことを知る必要はありません。多くの人にとって、.NETとは「フレームワークである」と考えれば十分です。フレームワークとは、わかりやすく言ってしまうと、「関数の集合体」です（図A）。VBでいえば、[Len]とか[Split]とか、

というアレです。では、フレームワークと関数の違う点はどこでしょう。単にインプットに対してアウトプットを計算して返すのが関数で、計算という枠を超えた「処理」を行なってくれる関数がフレームワークです。ちょっとややこしい表現ですね。関数は計算し

かしてくれませんが、**フレームワークはアプリケーションのひな形として即戦力になってくれる**

といったところです。これは、今後の本稿で.NETを学習してゆく中で納得していただけるはずですよ。

.NETとは、従来のVBに比べて充実した関数の化け物（フレームワーク）を意味し、VB.NETに限らずC#やASP.NETなどと共通で利用できる開発基盤であると考えてください（複数の言語で共通のものが使えるのが.NETの売りだそうです）。このフレームワークを呼び出す命令こそ、従来のVBと違ってくる部分ですが、基本的な構文などはほぼ同じです。.NETはよくわからんとか、難しそうとは言わず、まずは一度試していただきたいと思います。

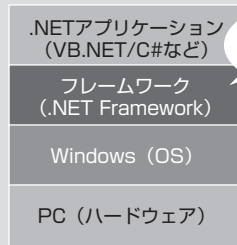
図A：.NETと以前のVB

VB6.0以前



実行エンジン。VBのバージョンごとに存在

.NET



実行エンジンと関数群